

2012年2月15日

滋賀県製品等を通じた貢献量評価手法検討会製品等
を通じた貢献量評価手法検討会 御中

同貢献量評価手法検討会委員
東シ株式会社 環境・エネルギー開発センター
企画推進室 主任部員 笠坊美紀

中間とりまとめ素案において再検討頂きたい事項

送付頂いた中間取りまとめ素案に対し、再検討頂きたい事項を下記申し上げます。これは、国内外で事業者の温室効果ガス削減効果の把握・管理や情報開示の動きが活発化している中で、そのような他基準・規格と、本検討会の考え方とのハーモナイゼーションという観点からご提案するものです。

宜しくご検討頂きたくお願い申し上げます。

① 2.2.1. 貢献量の定義

本検討では（県内での）「製品等の製造を通じた貢献」を想定されていますがもう少し範囲を広げて頂きたい。例えば下記。事業者がいずれかを選んで評価できるような、より取り組みやすい形として頂きたい。

- (a) 県内に製造事業所があり、そこで製造された製品・技術
- (b) 県内で研究開発された製品・技術
- (c) 県内で確立された生産プロセス技術

(a) はもちろん、(b) (c) も、本検討の目的 (2.1項) 「低炭素社会を構築するためにどのような製品を生み出したのか (低炭素社会づくりへの貢献) の視点で、県民等が事業者を評価することを可能にし～(略)～」に沿った重要な取り組みであり、滋賀県のメリットにもなりえると考えられるためです。

なお、低炭素社会につながる製品・技術・サービス・市民活動を応援する地域施策の先行事例として、川崎市による「低CO2川崎パイロットブランド (第7回日本LCAフォーラム奨励賞受賞)」がありますが、そこでも、(b) (c) の取り組みが対象に含まれています。

製品・技術部門	下記のいずれかに該当するもの ・川崎市内に製造事業所があり、川崎市内で製造された製品・技術 ・川崎市内で研究開発された製品・技術 ・川崎市内で確立された生産プロセス技術
サービス部門	下記のいずれかに該当するもの ・川崎市内で提供されたサービス ・川崎市内で企画されたサービス
市民活動部門	川崎市内で実践または企画され、市民の創意工夫によって市内外のCO ₂ 排出削減に貢献している市民活動

(<http://www.k-co2brand.com/apply/pdf/h23/guidebook.pdf> P4より抜粋)

② 2.3.9. 部品・素材の貢献量評価

最終製品の削減量に寄与度等をかけ算出することを原則とする、との考え方が示されています。しかし、現在、客観的かつ合理的な寄与率の算定手法は確立されておらず、寄与率を求めることは極めて困難です。そのため素材・部品の貢献量の配分は今後の要検討事項に留めて頂きたい。そして、基本的に

- (a) (部品・素材の貢献量評価が困難な場合) 最終製品の貢献量の把握でもよい。
- (b) (素材・部品の貢献量評価は) 業界で策定したガイドラインに従ってもよい。

ことを認めて頂きたい。

「寄与率および配分の考え方としては以下のものがある。

- ・ 配分せず全量をカウントする
- ・ 技術的貢献度を評価して配分する
- ・ 重量・体積などの物理量に基づいて配分する
- ・ CO2排出量に基づいて配分する
- ・ 経済価値によって配分する

③ 2.3.6. 評価する活動範囲

「製造製品のライフサイクル全体における削減量を評価対象とすることを基本とします」と記載はありますが、全体的を通して「使用段階」にフォーカスした表現が目立っています。「ライフサイクル」というキーワードを、より明確に打ち出して頂きたい。

「使用段階」にフォーカスした表現とは、例えば

- ・ P1 低炭素社会づくりと事業活動の関係イメージ、使用段階（他者）での削減
- ・ P1 業界団体等において製品の使用段階での貢献量評価を試みる動きも広がっています
- ・ P20 その中で最も簡略化できる場合として想定する使用段階
- ・ P21 方法2：一部の段階（使用段階のみ）の評価
- ・ P31 （事例において）よって太陽光発電システムの使用段階を算定対象とし、等。

製品の価値は価格や品質（使用時の省エネ）だけにあるのではなく、その製品を企画し、研究・開発し、生産し、販売し、リサイクルする、すべてのプロセスを包括的にとらえ、可能な限り環境負荷の低い方法で行うこと。そのような取り組みが重要なのは言うまでもありません。

本検討も「ライフサイクル全体でCO2を削減することの重要性」を強く意識した施策の一環と認識しておりますので、より明確に打ち出して頂きたいと考えます。

④ 2.3.6. 評価する活動範囲

P21（簡略化の）方法2：一部の段階（使用段階のみ）の評価、との記載から、使用段階の評価のみが容認されるように受とめられます。例えば、素材・部品といった中間材の場合、中間材どうしそのまま比較することも認めて頂きたい。

以上

1.3 低 CO₂川崎ブランドにおけるライフサイクル CO₂ 排出削減量とは

1.3.1 低 CO₂川崎パイロットブランドとは

低 CO₂川崎パイロットブランドは、川崎市内の企業による地球規模での CO₂ 削減に貢献する製品・技術、サービス、またこれから広く発信し普及を進めるべき製品・技術、サービスについて、CO₂削減川崎モデルに基づき評価を行い、広く発信することを通し、地球温暖化問題に積極的に取り組む企業を応援することを目的としています。すなわち、本ブランドは、環境問題への取組が企業価値の向上及び競争力の向上につながるという、環境と経済の調和及び好循環を促す仕組みの構築を目指しています。

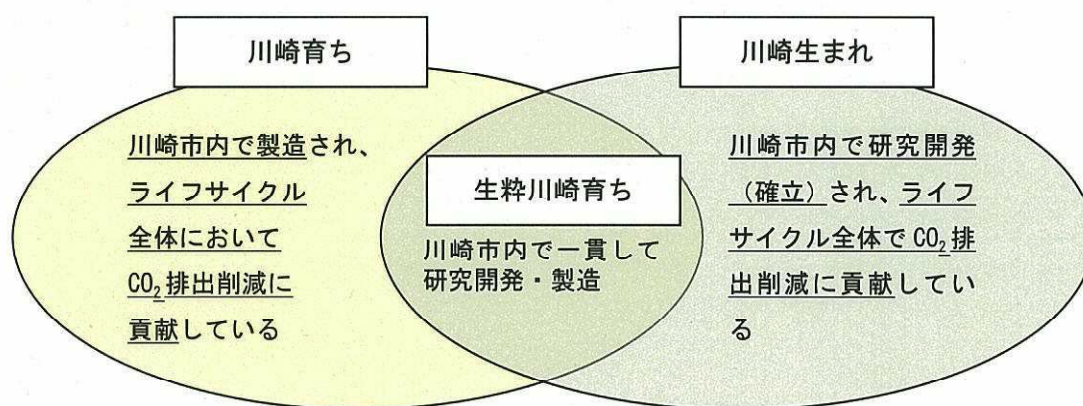
また、同時に間接的削減効果の考え方を普及させることにより、市内企業の低 CO₂製品・技術の開発に向けたスキル、及び市民の環境意識を向上させていくことも同時に狙いとしています。

平成 23 年度は、以下の 3 部門で募集をします。

製品・技術部門	下記のいずれかに該当するもの ・川崎市内に製造事業所があり、川崎市内で製造された製品・技術 ・川崎市内で研究開発された製品・技術 ・川崎市内で確立された生産プロセス技術
サービス部門	下記のいずれかに該当するもの ・川崎市内で提供されたサービス ・川崎市内で企画されたサービス
市民活動部門	川崎市内で実践または企画され、市民の創意工夫によって市内外の CO ₂ 排出削減に貢献している市民活動

※市民活動部門は平成 22 年度から新たに募集するものです。

また、各部門において、川崎市との係わり方によって「川崎育ち（生粋川崎育ち）」、「川崎生まれ」の概念を取り入れています。



※ 川崎生まれには、市外・海外に技術移転された「生産プロセス技術」も含まれます。

※ サービス部門においては、「研究開発」→「企画」、「製造」→「提供」、市民活動部門においては「研究開発」→「企画」、「製造」→「実践」と読み替えてください。